

宇和島市 御中

津島地区公共交通リ・デザイン調査 ご報告書

■調査概要



住民アンケート

N=326件



現地ヒアリング等

N=162件

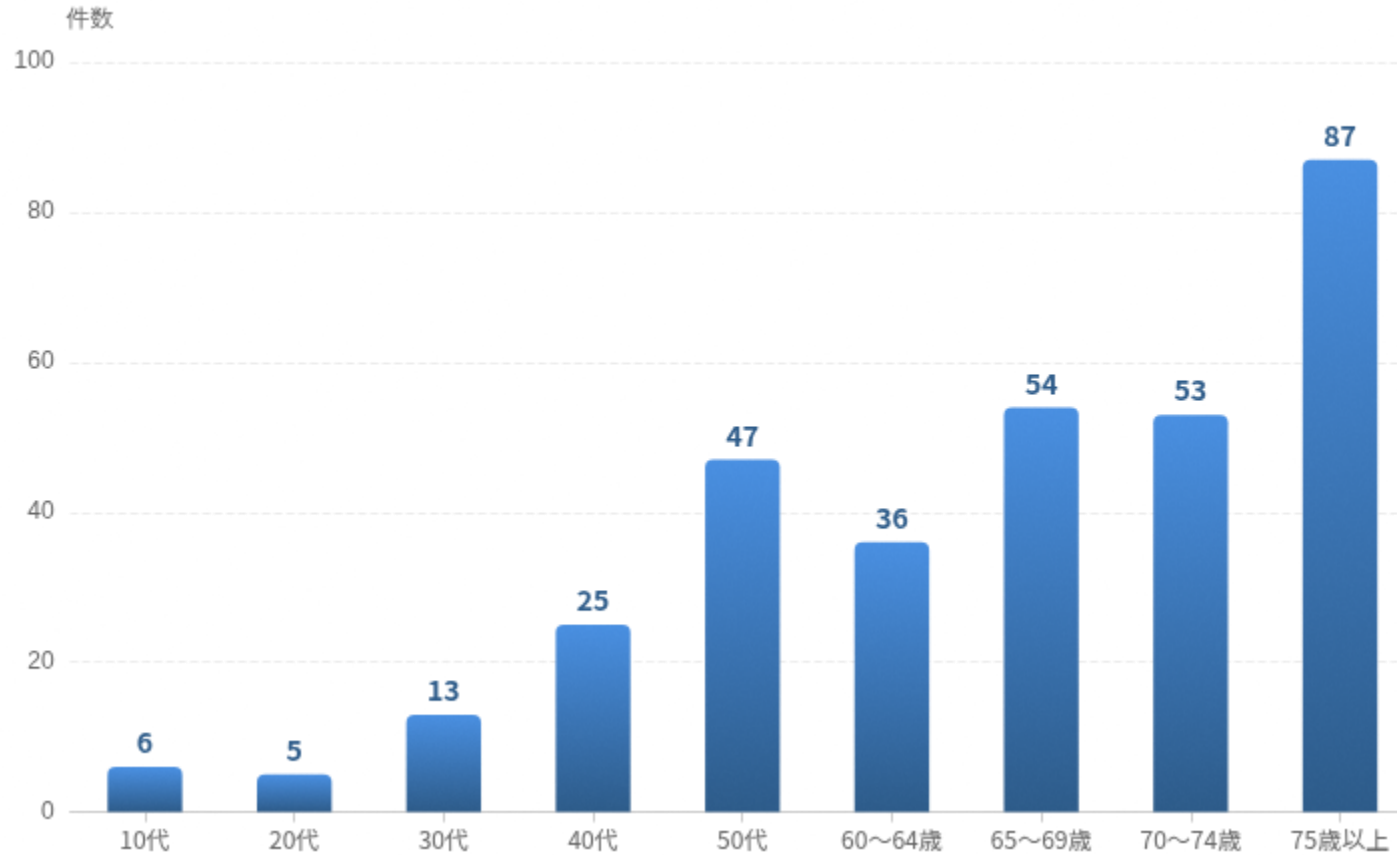
※住民アンケート全体件数1,914件うち240件は郵便番号未記入や回答内容の不備・分析不可な状態

2026年4月3日

回答者の傾向

津島地区 住民アンケート結果 (N=326)

年代別回答数分布 (件)



分析対象件数

326 件

回答構成のポイント

75歳以上が最も多く、全体の約27% (87件) を占める。

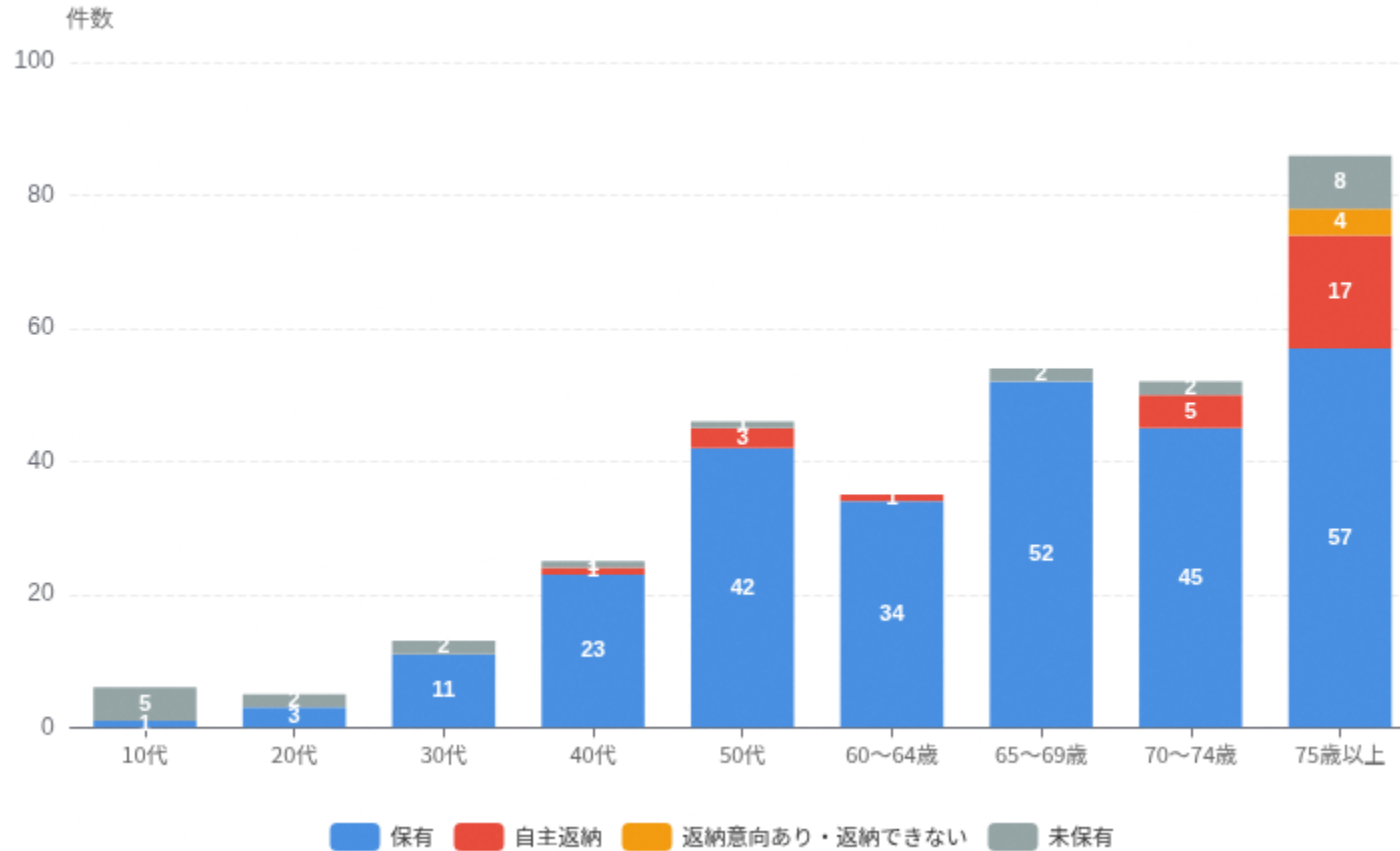
次いで65~69歳 (54件)、70~74歳 (53件) が多く、65歳以上の層が厚い。

65歳以上の高齢層合計は194件で、全体の約60%を占めており、他地区と比較しても高齢化率が高い傾向にある。

年代別_運転免許保有状況

津島地区 住民アンケート結果 (N=326)

年代別運転免許保有状況 (件)



🚗 75歳以上の免許自主返納状況

自主返納者 **17** 件

75歳以上の回答者87件中の約20%

免許保有の傾向

75歳以上では17件の自主返納があり、4件が「返納したいができない」状況にある。

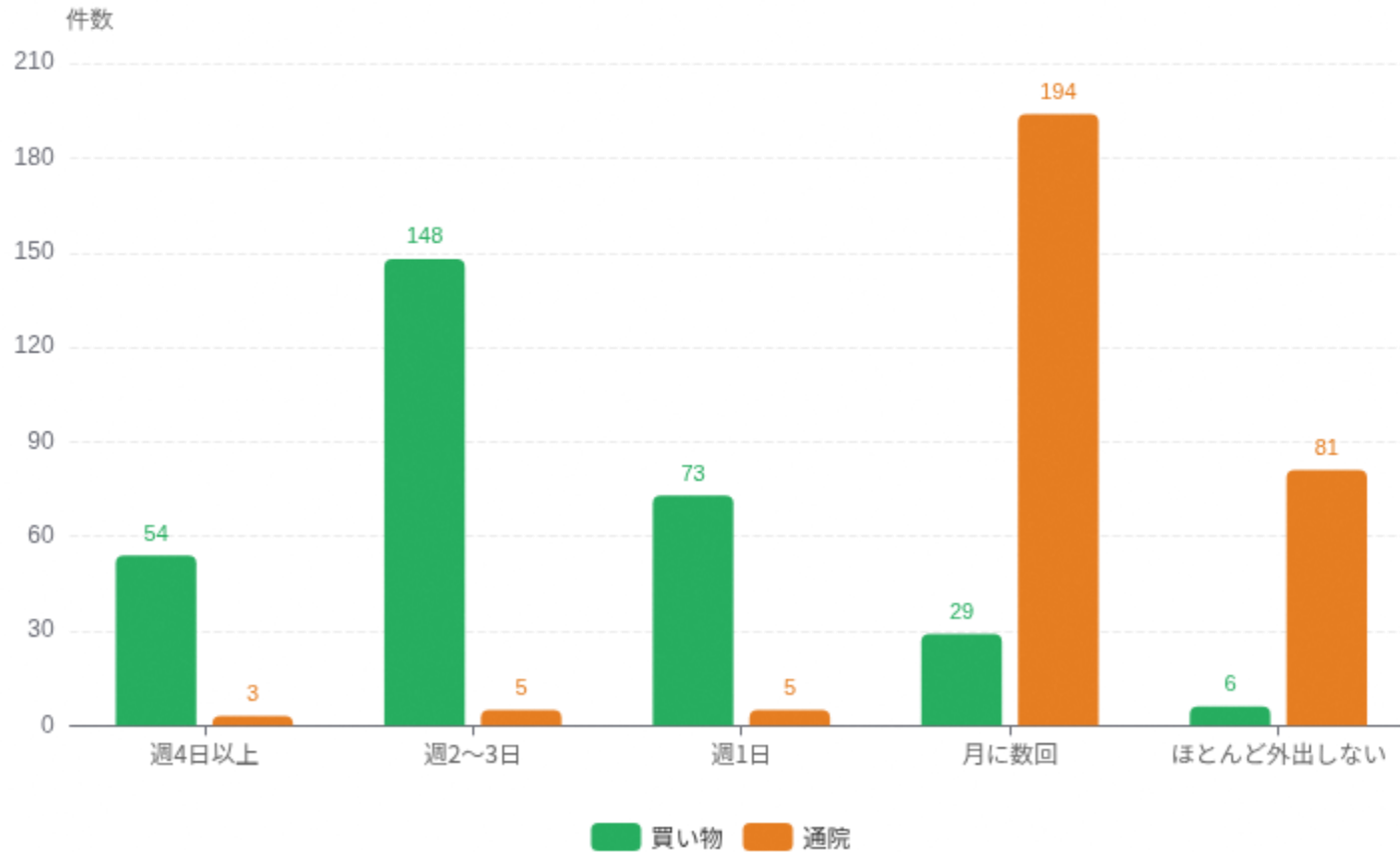
70~74歳の層でも5件の自主返納が見られ、高齢期における免許返納の動きが一部で進んでいる。

40代~60代の現役世代はほぼ全員が免許を保有しており、地域生活における移動手段として自動車が必要であることが示唆される。

外出頻度（目的別）

津島地区 住民アンケート結果（N=326）

目的別外出頻度比較（件）



🛒 買い物の外出頻度

週2回以上 **202** 件（約65%）

目的による頻度の違い

買い物は「週2~3日」が148件と最多で、次いで「週1日」が73件。週数回の外出が一般的。

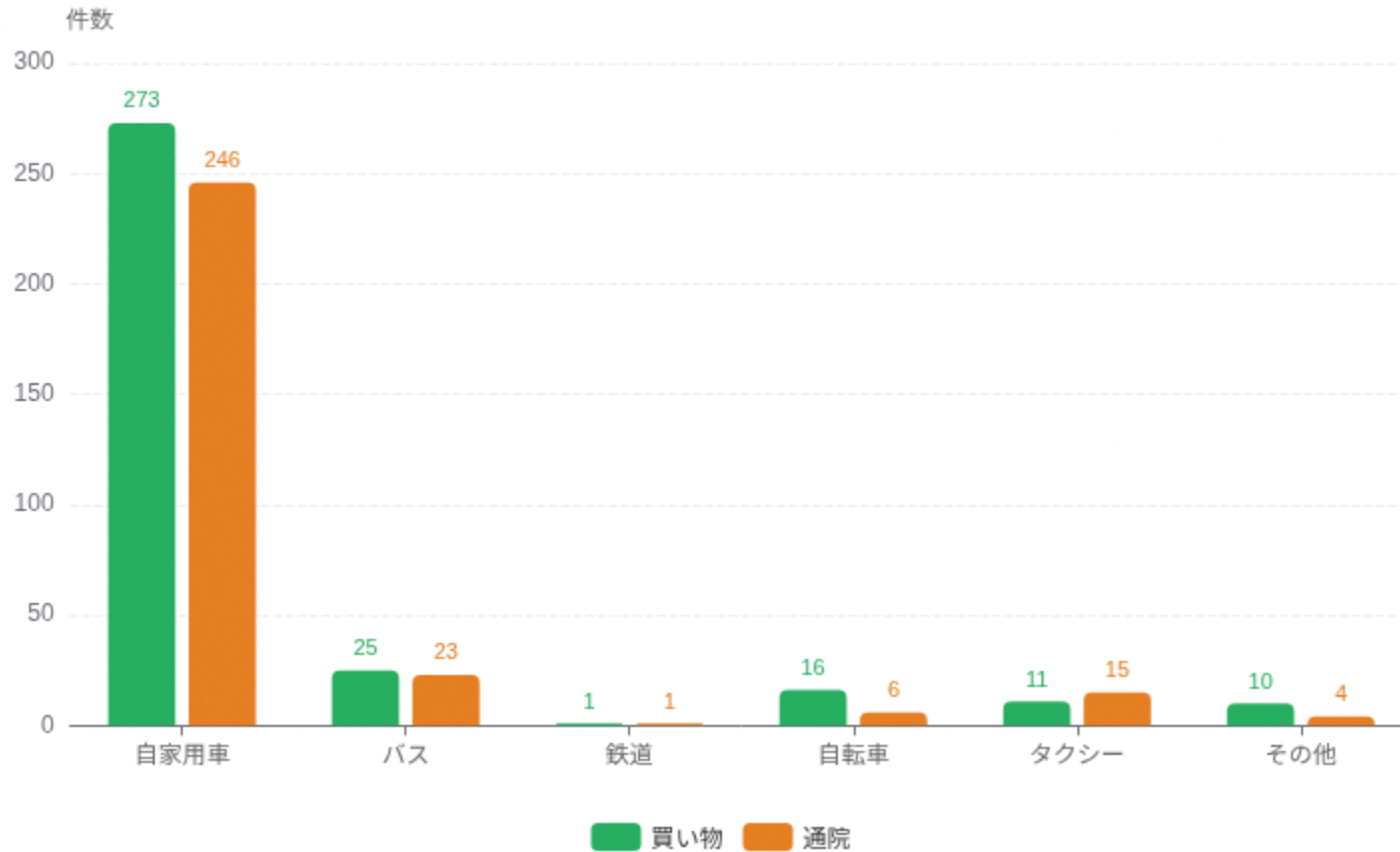
通院は「月に数回」が194件と突出しており、全体の約6割を占める。

通院頻度は他の地区と同様に低頻度傾向だが、「週4日以上」などの高頻度通院は極めて少ない（3件）。

移動手段

津島地区 住民アンケート結果 (N=326)

目的別移動手段比較 (件)



🚗 自家用車の利用割合 (買い物)

利用者数 **273** 件

買い物の約8割強を占め、圧倒的な移動手段

移動手段の特徴

自家用車が圧倒的で、買い物で273件、通院で246件。他手段との差が極めて大きい。

鉄道の利用は買い物・通院ともに各1件のみで、日常的な移動手段として機能していない。

自転車・タクシー・バスも一定数あるが、いずれも数十件程度と少数派にとどまる。

外出目的×交通手段：自家用車依存の可視化

津島地区 住民アンケート結果 ※複数回答のため、各行の合計は回答者数（N）と一致しません

目的 \ 手段	自家用車	バス	タクシー	鉄道	自転車	その他
買い物	273	25	11	1	16	10
通院	246	23	15	1	6	4
通勤	131	11	2	0	6	11
趣味・娯楽	171	15	5	4	7	7
習い事	164	13	10	1	3	5
通学	24	11	2	2	2	11

※その他：家族送迎、徒歩などを含む

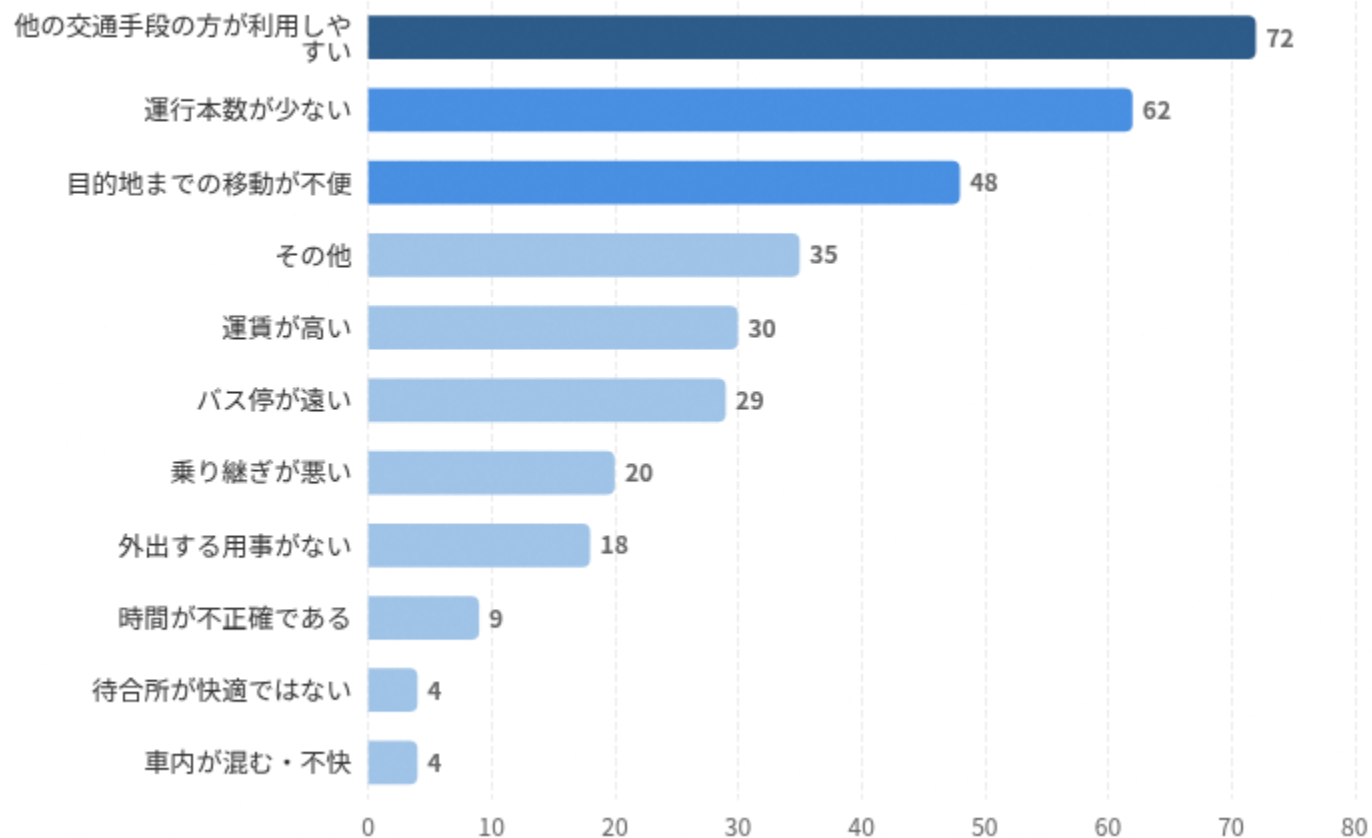
🔍 集計からの主な所見

自家用車が主要手段であり、通院ではタクシー比率がやや高くなっています。通学ではバス・その他が目立ちます。鉄道の利用は全体的に極めて限定的（趣味・娯楽で4件等）で、他の公共交通手段と比較しても低い水準です。

バスを利用しない理由

津島地区 住民アンケート結果 (N=326)

バスを利用しない理由 (回答件数)



! 最多理由

他の交通手段の方が利用しやすい **72** 件

自家用車への依存度が依然として高い状況

上位5理由 (件数)

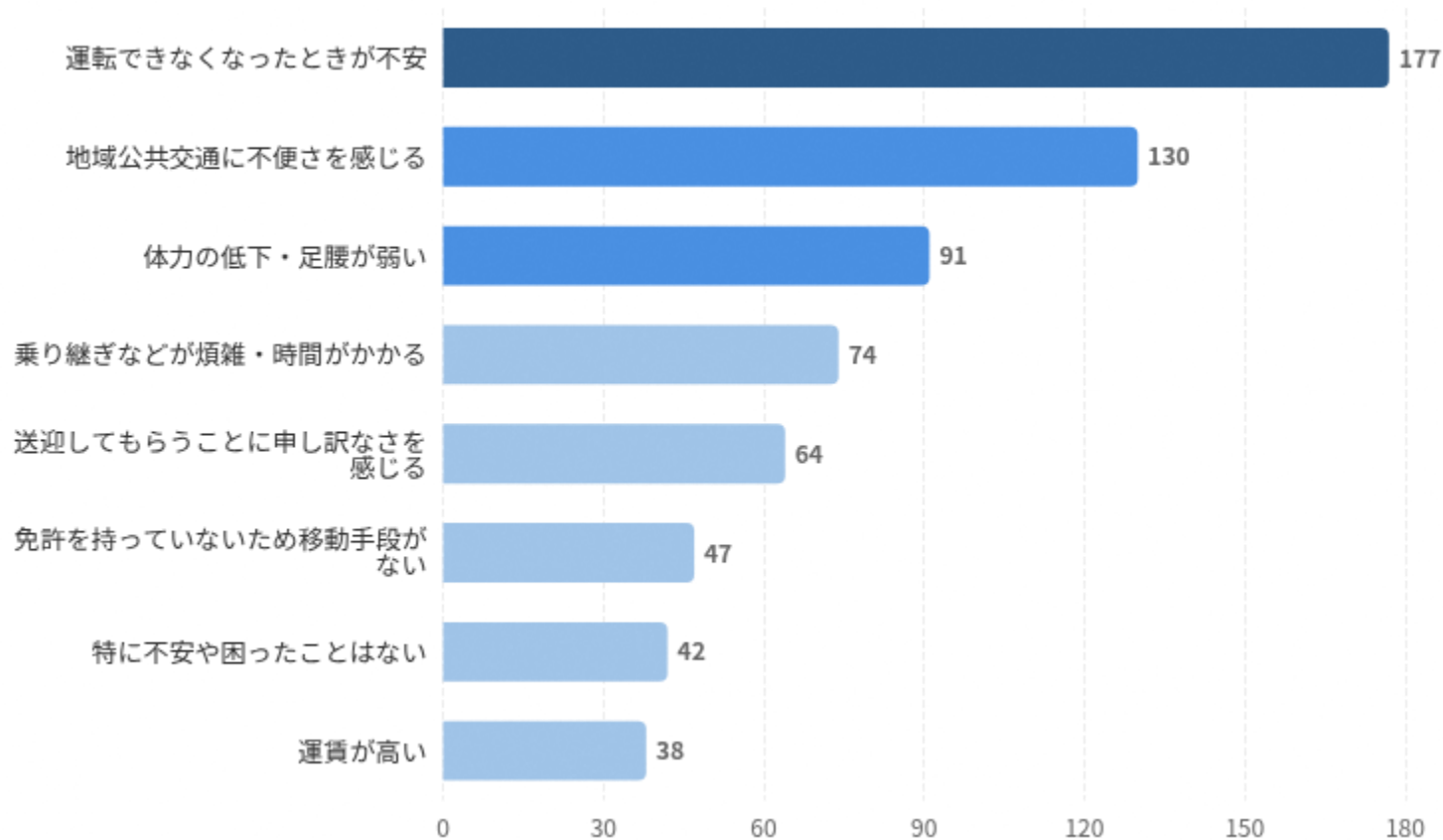
順位	理由	件数
1	他の交通手段の方が利用しやすい	72
2	運行本数が少ない	62
3	目的地までの移動が不便	48
4	その他	35
5	運賃が高い	30

「運行本数が少ない」「目的地までの移動が不便」といった利便性の課題が上位。また「運賃が高い」が5位に入っており、コスト面の不満も見られる。

外出の不安・困りごと

津島地区 住民アンケート結果 (N=326)

外出の不安・困りごと (回答件数)



🚨 最多回答

運転できなくなったときが不安 **177** 件

自家用車依存度が高い郊外地区特有の懸念

上位5項目 (件数)

順位	回答内容	件数
1	運転できなくなったときが不安	177
2	地域公共交通に不便さを感じる	130
3	体力の低下・足腰が弱い	91
4	乗り継ぎなどが煩雑・時間がかかる	74
5	送迎に申し訳なさを感じる	64

「運転への不安」が最も多く、地域公共交通への不便さも強く感じられている。「送迎に申し訳なさ」も上位にあり、家族等に頼らざるを得ない状況の心理的負担も窺える。

現地でのお声（抜粋）

👤 将来の不安

💬 免許返納後の移動手段がどうなるか分からず不安

💬 将来を考えると、ライドシェアのような送迎があると助かる

💬 車に乗れなくなった後は困る。今はマイカーがあるから大丈夫だが…

💬 遠出は知人送迎やバス頼み。バスのステップが高く、足が痛い知人もいる

⚠️ 公共交通の不満

💬 代行タクシーが少なく、路線バスの本数も少ない

💬 宇和島まで乗り換えが必要で、直通で行けず使いづらい

💬 宇和島バスが入って来れない場所があり、バス停まで遠い

💬 昼間の便が少なく、通院後に1時間以上待つことがある

💡 改善要望

💬 タクシーは高額なので、コミュニティバスの本数を増やしてほしい

💬 乗り換えなしで市内まで行けるルート・ダイヤにしてほしい

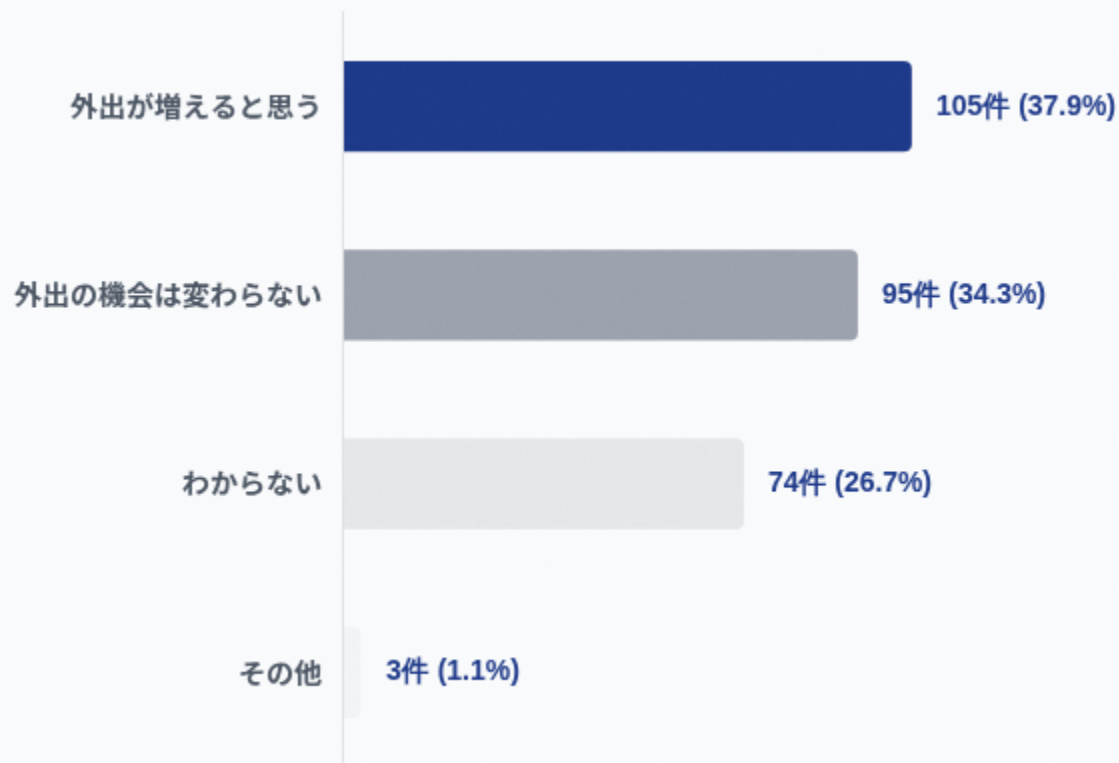
💬 子供の下校時（16時台）に合わせた便があれば家庭の送迎負担が減る

💬 バス停がもう少し家から近ければ、もっと利用しやすくなる

外出の変化

津島地区 住民アンケート結果（※問25 無回答除く）

問25 「地域公共交通が便利になることでの外出機会の変化」 回答分布



※ 「便利になれば外出が増えると思う」と回答した割合を中心に分析

📊 回答者の4割弱が外出増加を期待

「外出が増えると思う」との回答は**37.9%**（105件）。
「変わらない」34.3%、「わからない」26.7%と意見が分かれており、利便性向上による効果への期待感と慎重な見方が混在しています。

👤 免許非保有層の高い期待感

免許なし・返納者における「外出が増える」回答率は**44.7%**。
免許保有者（36.5%）と比較して8.2ポイント高く、自力移動が困難な層ほど公共交通改善による行動変容の可能性が高いことが示唆されます。

🚌 バス利用者の顕著な反応

週4日以上バス利用者では**62.5%**、週1日利用者では**83.3%**が外出増加を予想。
一方、バスを「あまり利用しない」層では32.3%にとどまり、既存利用者の利便性向上が外出促進に直結しやすい傾向が見られます。

📌 特徴：

60～64歳（45.5%）や免許非保有層での期待が高く、特に既存バス利用者の外出頻度向上に効果的と考えられます。